

梅毒について

◆ 梅毒とは？

梅毒トレポネーマという細菌が、主に性行為(口腔性交や肛門性交を含む)などの性的接触により感染します。

性器などにしこりや潰瘍ができた後、手のひらや体中に発疹が現れます。いったん症状が消えても、病気は進行しています。

治療せずに数年が経つと血管や皮膚、神経などに病変が生じます。

一度治っても、再び感染することがあります。

妊娠中に梅毒に感染すると、胎盤を通じて胎児に感染し、死産や早産、障害をもって生まれることがあります(先天梅毒)。

◆ 梅毒にかからないためには

コンドームの適切な使用が感染予防に有効です。

早期に治療すれば、抗菌薬によって治すことができます。

◆ どうやって感染するの？

性行為等により、皮膚、粘膜の微細な傷口から感染します。キスでも感染の可能性があります。

※ 精液、血液、膣分泌液、皮膚のただれ等から感染しますが、一般の生活での接触程度では、感染する心配は、ほとんどありません。

先天梅毒の場合、胎児の時に子宮内で母親から感染します。

◆ 梅毒の症状

感染した日		症状はありません。
I 期	感染後3週間程度	唇、口の中、陰部、肛門等にしこりができます。 痛みがなく、あっても軽いので自覚しないことがあります。 しこりが腫れて潰瘍になることもあります。 治療をしなくても自然に消えたりすることがあります。
II 期	I 期の症状出現から 4週～10週間程度	発熱、頭痛などの症状が現れます。 手や足の裏を中心に全身に痛みやかゆみのない赤い発疹が出ます。 しばらくすると自然に消えます。
感染後数年～数十年程度		皮膚に大きめのしこりが出てきます。 心臓、血管、脳などの臓器がただれ、死に至ることもあります。

◆ HIV との関係

梅毒と HIV 感染はどちらも性行為で感染するため、重複感染の可能性があります。

HIVは、もともと感染力が弱いウイルスなのですが、梅毒で粘膜に傷や潰瘍があるとHIVに感染する確率が高くなります。

梅毒の流行を止めるためには早期診断・早期治療が重要となります。

梅毒は色々な症状が現れるため、少しでも疑わしい症状があれば医療機関に受診してください。